



新年あけましておめでとうございます

旧年中は、図書館再編や電子図書館の開始など様々なことがありましたが、図書館運営へご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。
本年も、皆様のお役に立つ図書館を目指して、職員一同取り組んでまいります。
引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

新刊案内

《小説》

- 『奥州狼狩奉行始末』 東圭一(著) 角川春樹事務所
- 『デウスの城』 伊東潤(著) 実業之日本社
- 『なれのはて』 加藤シゲアキ(著) 講談社
- 『台北アセット』 今野敏(著) 文藝春秋
- 『アンと幸福』 坂木司(著) 光文社
- 『山ぎは少し明かりて』 辻堂ゆめ(著) 小学館
- 『こちら空港警察』 中山七里(著) KADOKAWA
- 『わたしに会いたい』 西加奈子(著) 集英社
- 『黒い絵』 原田マハ(著) 講談社
- 『思い出の肩籠』 佐藤愛子(著) 中央公論新社
- 『笑う老人生活』 高嶋弘之(著) 幻冬舎

《その他》

- 『一冊でわかる平安時代』 大石学(監修) 河出書房新社
- 『なるようになる。』 養老孟司(著) 中央公論新社
- 『地政学倶楽部へようこそ!』 平良隆久(著) 小学館
- 『株の超入門書』 安恒理(著) 高橋書店
- 『ヘンな矢印標識』 山崎賀功(著・写真) 自由国民社
- 『やる気1%ごはん』 まるみキッチン(著) KADOKAWA
- 『農家が教える緑肥で土を育てる』 農文協(編) 農山漁村文化協会
- 『日本と世界の犬種図鑑』 武内ゆかり(監修) ナツメ社
- 『もっと知りたいやまと絵』 土屋貴裕(著) 東京美術

1月



1/20は“もこもこ”のおはなし会です。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月



日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

【特別休館のお知らせ】

図書館システム更新作業及び蔵書点検のため、2月16日(金)～2月29日(木)の期間、休館いたします。

おはなし会(会場:本館) 0～2歳くらい(11:00～) 3歳くらいから(11:00～)

休館日 毎週月曜日 毎月最終木曜日 開館時間 本館 10:00～18:00 分室 12:30～17:00

※最新の情報はホームページをご確認ください。

図書館員おすすめの本

『世界一やさしいバラづくり』

村上 敏 (著) 日本文芸社 (2021)



バラは病害虫に弱く、病気にかかりやすいと思われていませんか？この本は強くて育てやすいバラを厳選されています。バラ作りに挑戦したい初心者の方におすすめの一冊です。 [凜]

『ターシャ・テューダーへの道』

食野 雅子 (著) 主婦と生活社 (2018)



手仕事を愛するその暮らしぶりから、日本にもファンが多いターシャ・テューダー。そんなターシャと交流のあった著者から見たターシャの魅力や生き方が、たくさんの写真やイラストとともに感じられる1冊です。 [しっぼ]

『窓ぎわのトットちゃん』

黒柳 徹子 (著) 講談社 (1981)

自由奔放な振る舞いに困り果てた小学校から退学を促されたトットちゃん。そんなトットちゃんを転校先のトモ工学園の先生や友達は暖かく迎え入れてくれます。ところが、戦争はこのかけがえのない場まで奪ってしまうのです。黒柳徹子の自伝的な物語で、今秋、続編が出版されました。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続編を書ききっかけだったそうです。 [ii]



『本を味方につける本 自分が変わる読書術』

永江 朗 (著) 河出書房新社 (2012)

本を読むことの効果や、読書を通じて自分自身成長させるためのヒントなどを、ユーモアやイラストを交えながら紹介しています。本は、自分の考えを広げたり、問題を解決したり、人生を豊かにしたりする味方だということがわかります。本との関係を深めることで、自分の知らない世界に触れることができるかもしれません。 [ぴ]



『くもをさがす』

西 加奈子 (著) 河出書房新社 (2023)

2021年コロナ禍に滞在先のカナダで浸潤性乳がんを宣告された著者の闘病生活を描いたノンフィクション。がん宣告・コロナ感染・両乳房切除と重たい内容ですが、看護師との会話に関西弁書かれていることで読みやすく、日本とバンクーバーの医療システムの違いもとても興味深いです。タイトルの「くも」は「蜘蛛」ですが、読後は心の中の雲が晴れるようなスッキリした気持ちになり「生きる力」がもらえます。 [ま]

『考古学者が発掘調査をしていたら、怖い目にあった話』

大城 道則 (著) ポプラ社 (2023)

3人の考古学者によるノンフィクションエッセイです。日常生活を送るうえで避けて通れない食事やトイレ事情から、墓の中に閉じ込められるなど、考古学者だから体験しえる出来事が綴られています。考古学者の世界を垣間見てみませんか？ [竜胆]



あけましておめでとうございます。今年の干支は「辰」ですね。「辰」は「龍」でもあるそうなので、天高くのぼる「龍」のように上り調子な一年となるといいですね。

今年もよろしくお祈りします。

[Ma]



電子図書館



みやこ町図書館HP